

リクルートグループは社会からどう見えているのか。私たちへの期待や要望をありのままに語っていただきました。

ルーティン業務の一步先の仕掛けを。 永遠の狩猟民族たれ

2010年に政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を創設して以来、住まいカンパニーと「リタイアメント・コミュニティ」、ワークス研究所と「次世代シニアの働き方」、「じゃらん」と「シニアの学びツアー」など、広範なご縁をいただいております。

2050年には3人に1人が65歳以上になる社会ですが、高齢化はピンチでなくチャンスだと思うのです。そこでは、社会の課題解決をビジネス化させる狩猟民族的なビジネス嗅覚の鋭さが不可欠になります。

そのなかで今のリクルートにあえて苦言を呈するならば、「縦割り」「仕掛けよりこなし」のふたつでしょうか。「いや、それは別カンパニーですね」「日々のルーティンで手一杯です」的な「こなし中心」の農耕・草食系が若い世代にみられること。

プラチナ社会でのビジネスモデルは、組み合わせ型です。単品売りでなく、住まい方・働き方・生き方の複合解決であり、まさにリクルートの事業のシナジーが活かされるチャンスです。ゆえに縦割りのカンパニー意識や大企業の発注者意識がもしあれば戒めて欲しい。ルーティンの一步先の仕掛けに邁進する「永遠の狩猟民族」であって欲しい。

リクルートの創ってきた仕事は、「楽市楽座」だと思います。楽しいから集まる、ためになるから集



まる、儲かるから集まる。いわば“わくわく・ふむふむ・ギラギラ”です。このスピリットは実はプラチナ社会も一緒。崇高な理念と欲望が両立するプラチナ社会は、実は“ふらちな社会”だと。この表現は三菱総研らしくないんですが(笑)。

かつて黄金の国ジバングと呼ばれ世界が憧れた日本が再び輝くような夢のある仕事をしたい。ダボスの経済フォーラムに匹敵するような、課題解決のモデルを求めて世界から日本に集う楽市楽座。そんな夢のあるプラチナ社会を一緒に創りましょう。

松田智生さん 株式会社三菱総合研究所 プラチナ社会研究センター 主席研究員

専門は超高齢社会の地域活性化、アクティブシニアのライフスタイル。2010年、三菱総研の新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」を創設。産官学への提言や講演を多数行う。国際ホテル・レストランショー企画委員。内閣府高齢社会フォーラム企画委員。高知県・移住促進協議会委員。OECD「都市の国際ラウンドテーブル」リードスピーカー。共著に『シニアが輝く日本の未来』、『3万人調査で読み解く。日本の生活者市場』

<http://platinum.mri.co.jp/platinum-society/profile/matsuda>